



Alerts and Events 画面の使用

次のトピックでは、Alerts and Events 画面の使用方法について説明します。

- [Alerts and Events 画面の使用方法 \(P.3-2\)](#)
- [Alerts and Events 画面の起動 \(P.3-3\)](#)
- [Alerts and Events 画面を使用したアラートの詳細の取得 \(P.3-6\)](#)
- [Alerts and Events 画面のカスタマイズ \(P.3-8\)](#)
- [アラートおよびイベントの詳細の取得 \(P.3-10\)](#)
- [デバイス情報の入手 \(P.3-19\)](#)
- [デバイスの監視の一時停止 \(P.3-25\)](#)
- [アラートへの応答 \(P.3-27\)](#)

Alerts and Events 画面の使用法

Alerts and Events 画面は、ユーザ ネットワークの操作ステータス情報をリアルタイムで提供します。この画面は設定したら実行したままにできるように設計されており、注意が必要なときにシグナルを発行する継続監視ツールを提供します。ネットワークで障害が発生すると、IP Communications Operations Manager (Operations Manager) によってイベントが生成され、複数のイベントは1つのアラートになります。アクティブなビュー (デバイス グループを論理グループ化したもの) 内のいずれかの要素にアラートが発生すると、Alerts and Events 画面に表示されます。

また、Operations Manager イベントの名前をわかりやすい名前に変更できます。このカスタマイズした名前は、Alerts and Events 画面とユーザが作成するすべての Alert History レポートに反映されます。Notification Customization を使用して Operations Manager イベント名を変更する方法については、P.14-21 の「イベントのカスタマイズ」を参照してください。

ユーザは、Operations Manager がサポートするすべてのデバイスを、デバイス管理を通じて追加し、デバイスがビューに追加されたことを確認すれば、監視することができます。ただし、Operations Manager は、デバイス グループ全体に関するアラートについてはレポートしません。Cisco CallManager または Cluster groups を除き、アラートは専用のデバイスまたはデバイス コンポーネントでのみレポートされます。



(注)

Alerts and Events 画面で生成されたすべての Alert History レポートは、過去 24 時間の情報を提供します。24 時間以上遡って Alert History レポートを生成するには、**Reports > Alert and Event History** を選択して、Reports タブの Alert History を実行してください。詳細については、P.11-3 の「24 時間のコンテキストベースの Alert and Event History レポート」を参照してください。

Alerts and Events 画面の起動

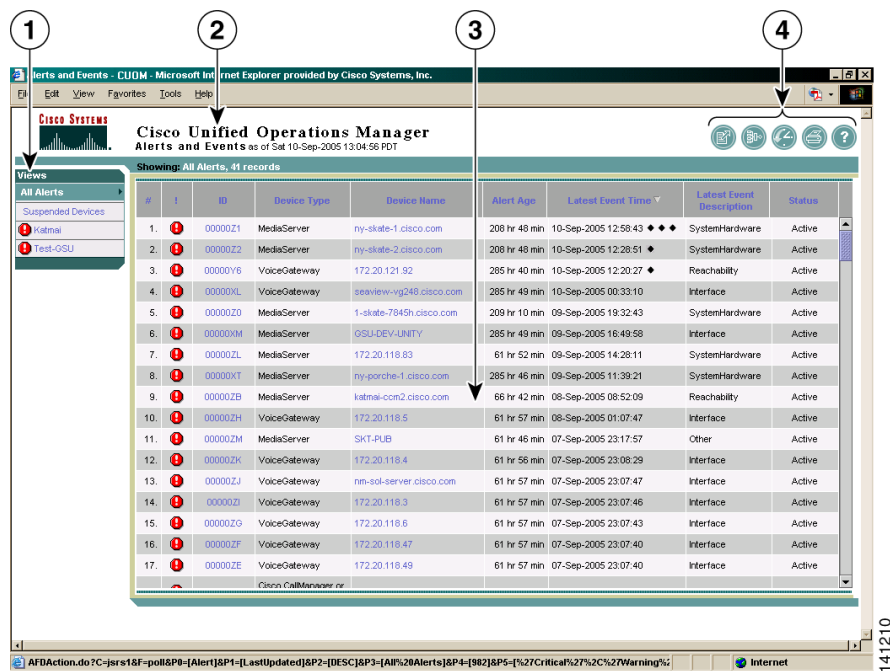
Alerts and Events 画面を起動するには、**Monitoring Dashboard > Alerts and Events** の順に選択します。図 3-1 に、Alerts and Events 画面の表示例を示します。



ヒント

Alerts and Events 画面について理解したら、P.3-8 の「Alerts and Events 画面のカスタマイズ」の手順に従ってこの画面を編集すると、提供される情報を変更できます。

図 3-1 Alerts and Events 画面



1	ビューペイン。P.3-3 の「ビューペイン」を参照してください。	3	表形式の表示ペイン。P.3-4 の「表形式の表示ペイン」を参照してください。
2	起動情報およびステータスバー表示領域。P.3-4 の「起動情報およびステータスバー表示領域」を参照してください。	4	Window ツール領域。P.3-5 の「Window ツール領域」を参照してください。

Alerts and Events 画面のレイアウトについて

次のトピックでは、Alerts and Events 画面の情報について詳しく説明します。

ビューペイン

ビューペインには、現在使用可能なビューのリストが表示されます。ビューを Alerts and Events 画面に表示するには、事前に作成およびアクティブ化する必要があります。デフォルトでは、All Alerts および Suspended Devices の 2 種類が常時表示されます。これらのビューは Alerts and Events 画面から削除できません。(ビューの作成およびアクティブ化の方法、または、不要なビューを画面から削除する方法については、P.6-1 の「ビューの管理」を参照してください。)

ビュー ペインでは、現在のビューが強調表示されています。現在のビューの内容が、ビュー ペイン右側の表形式の表示ペインに表示されます。別のビューを選択するには、ビュー ペインのビュー名をクリックします。

図 3-2 に、5つのアクティブなビューを示します。現在のビューは All Alerts です。ビューの横にあるアイコンは、そのビューのデバイスから受信したアラートの重大度を示しており、デバイスに注意が必要な可能性があることを知らせています。

図 3-2 Alerts and Events 画面 : ビュー ペインおよび重大度アイコン

The screenshot shows the Cisco Unified Operations Manager Alerts and Events interface. The top navigation bar includes 'File', 'Edit', 'View', 'Favorites', 'Tools', and 'Help'. The main header displays the Cisco logo and the text 'Cisco Unified Operations Manager Alerts and Events as of Wed 01-Mar-2006 15:54:16 PST'. Below the header, there is a 'Views' sidebar on the left with options: 'All Alerts' (selected), 'Suspended Devices', 'Test1', and 'Test2'. The main content area shows a table of alerts with the following data:

#	!	ID	Device Type	Device Name
1.	!	00000RV	IPCC	161.44.250.76
2.	!	00000S8	IPCC	161.44.250.19
3.	!	00000SA	MediaServer	1-skate-7845h.cisc
4.	!	00000RU	VoiceGateway	vhm-vg200-1.cisco
5.	!	00000S4	Router	vegas-vg200-2.cisc
6.	!	00000RY	VoiceGateway	seaview-cat6k.cisc
7.	!	00000RX	MediaServer	mirage-ccm1.cisco
8.	!	00000RT	VoiceGateway	seaview-chopin.cis

現在のビューである All Alerts では、図 3-2 に示すように、アラートの横に表形式の重大度アイコンも表示されています。これによって、特定のアラートをすばやく特定することができます。

ビュー ペインは 2 分ごとにアップデートされます。1 つの Alerts and Events 画面のビュー ペインには 18 ビューまで表示できます。

起動情報およびステータスバー表示領域

起動情報の表示領域には、Alerts and Events 画面が起動したサーバの時刻が表示されます。

ビューのステータスバーには、選択されたビューのリストとそのビュー内のアラート数が表形式の表示ペインに表示されます。

表形式の表示ペイン

表形式の表示ペインは、Alerts and Events 画面の中核となるペインです。現在のビューでデバイスに発生しているすべてのアラートのリストがあります。このペインは 30 秒ごとにリフレッシュされます。表形式の表示ペインにあるすべての項目の説明については、P.3-6 の「Alerts and Events 画面を使用したアラートの詳細の取得」を参照してください。

アイコンは、必要な注意点についてユーザに知らせます。アラートには次の種類があります。





- 重大度アイコンは、注意が必要なビューおよびアラートを示します。
- Last Change カラム内のひし形の記号は、最近のアクティビティで検出されたアラートを示します。Last Change カラムにアイコンが表示されない場合、このアラートがもう現在のアラートでないか古いことを表しています。

表形式の表示ペインはスクロールが可能で、1,000 レコードまで格納できます。表形式の表示ペインを図示した図 3-3 を参照してください。

Window ツール領域

Alerts and Events 画面の右上隅には、使用可能なツール ボタンが表示されます。すべてのボタンの説明をまとめたものが、次の表 3-1 です。

表 3-1 Alerts and Events 画面 : Window ツール ボタン

アイコン	意味	参照先
	現在の表示を PDF ファイルにエクスポートします。	P.1-19 の「画面またはレポートからデータをエクスポートする」
	Alerts and Events 画面の表形式の表示を絞り込む Filter ページを開きます。	P.3-8 の「Alerts and Events のフィルタリング」
	印刷用にプリンタに適したバージョンを開きます。	P.1-20 の「画面またはレポートの印刷」
	Alert History レポートを開きます。	P.11-11 の「Alert History レポートについて」
	オンライン ヘルプを開きます。	P.1-17 の「ヘルプの使用」

Alerts and Events 画面を使用したアラートの詳細の取得

Alerts and Events 画面の表形式の画面を使用すると、現在のビューで発生しているアラートに関するより詳しい情報を得ることができます。アラートは [図 3-3](#) に示すように、重大度に応じて重大、警告、または情報にグループ化されて表形式の画面に表示されます。重大度をグループ化したバケットでは、一番最後に変更されたアラートがリストの先頭になります。

アラートが生成されると、有効期限が切れるまで Alerts and Events 画面に保持されます。Operations Manager が、自身が通常のポーリングを行って、ポーリング時刻から 8 分以上アラームが Cleared 状態を継続していると判定した場合に、Operations Manager は、アラートの状態を Expired に設定します。アラートが画面に表示されている間に、そのいずれかのイベントが再発すると、アラートはアップデートされます。期限切れのアラートが再発した場合、新しいアラートが新しい ID で表示されます。



(注)

Alerts and Events 画面を使用するときは、次の点に注意してください。

- 監視対象デバイスがネットワークから取り外された場合、そのデバイスは到達不能でも、次のインベントリの収集が行われるまで Monitored 状態のままとなります。このデバイスが到達不能であると特定できるのは、Alerts and Events 画面にこのデバイスの到達不能アラートが表示されたときだけです。
- デバイスが応答不能になると、このデバイスに既存するすべてのイベントがクリアされ、応答不能イベントが 1 つ生成されます。

[図 3-3](#) に、Alerts and Events の表形式の表示例を示します。この画面は 30 秒ごとにリフレッシュされます。

図 3-3 Alerts and Events : 表形式の表示

IP Communications Operations Manager
Alerts and Events as of Sat 10-Sep-2005 13:04:56 PDT

Showing: All Alerts, 41 records

#	!	ID	Device Type	Device Name	Alert Age	Latest Event Time	Latest Event Description	Status
1.	!	00000Z1	MediaServer	ny-skate-1.cisco.com	208 hr 48 min	10-Sep-2005 12:58:43	SystemHardware	Active
2.	!	00000Z2	MediaServer	ny-skate-2.cisco.com	208 hr 48 min	10-Sep-2005 12:28:51	SystemHardware	Active
3.	!	00000Y6	VoiceGateway	172.20.121.92	285 hr 40 min	10-Sep-2005 12:20:27	Reachability	Active
4.	!	00000XL	VoiceGateway	seaview-vg248.cisco.com	285 hr 49 min	10-Sep-2005 00:33:10	Interface	Active
5.	!	00000Z0	MediaServer	1-skate-7845h.cisco.com	209 hr 10 min	09-Sep-2005 19:32:43	SystemHardware	Active
6.	!	00000XM	MediaServer	OSU-DEV-UNITY	285 hr 49 min	09-Sep-2005 16:49:58	Interface	Active
7.	!	00000ZL	MediaServer	172.20.118.83	61 hr 52 min	09-Sep-2005 14:28:11	SystemHardware	Active
8.	!	00000XT	MediaServer	ny-porche-1.cisco.com	285 hr 46 min	09-Sep-2005 11:39:21	SystemHardware	Active
9.	!	00000ZB	MediaServer	katmai-ccm2.cisco.com	66 hr 42 min	08-Sep-2005 08:52:09	Reachability	Active
10.	!	00000ZH	VoiceGateway	172.20.118.5	61 hr 57 min	08-Sep-2005 01:07:47	Interface	Active
11.	!	00000ZM	MediaServer	SKT-PUB	61 hr 46 min	07-Sep-2005 23:17:57	Other	Active
12.	!	00000ZK	VoiceGateway	172.20.118.4	61 hr 56 min	07-Sep-2005 23:08:29	Interface	Active
13.	!	00000ZJ	VoiceGateway	nm-sol-server.cisco.com	61 hr 57 min	07-Sep-2005 23:07:47	Interface	Active
14.	!	00000ZI	VoiceGateway	172.20.118.3	61 hr 57 min	07-Sep-2005 23:07:46	Interface	Active
15.	!	00000ZG	VoiceGateway	172.20.118.6	61 hr 57 min	07-Sep-2005 23:07:43	Interface	Active
16.	!	00000ZF	VoiceGateway	172.20.118.47	61 hr 57 min	07-Sep-2005 23:07:40	Interface	Active
17.	!	00000ZE	VoiceGateway	172.20.118.49	61 hr 57 min	07-Sep-2005 23:07:40	Interface	Active

Cisco CallManager nr







[表 3-2](#) は、表要素の定義をまとめたものです。すべての要素は 30 秒ごとにアップデートされます。



ヒント

Alerts and Events 画面の Window ツール領域から Alert History を表示すると、デバイスで発生したすべてのアラートに関する過去 24 時間の Alert History レポートを生成できます。

表 3-2 Alerts and Events の表形式の表示：内容

見出し	説明	
!	アラートの重大度	
		重大
		警告
		未確認トラップの情報アラート
(アイコンなし)	情報 (他のすべてのアラート)	
ID	アラート識別番号。このリンクをクリックすると Alert Details ページが開きます (P.3-10 の「Alert Details ページの起動」を参照)。	
Device Type	デバイスのタイプ。Inventory Collection in Progress は、アラートの発生時に Operations Manager がデバイスを検出していたことを示しています。新しいイベントの発生時に実際のデバイス タイプが反映されます。詳細については、P.15-1 の「Device Management の使用方法」を参照してください。	
Device Name	デバイス名または IP アドレス。このリンクをクリックすると Detailed Device View が開きます (P.3-23 の「デバイス要素の詳細の表示」を参照)。	
Alert Age	アラート ステータスに応じた、アラート作成後の経過時間です。	
Latest Event Time	アラートが最後に発生または変更された日付と時刻。ひし形は、新規イベント、アラート確認応答、新規ユーザの注釈などのアラート アクティビティを示します。ひし形がない場合、アラートが古いことを示します。アラートは重大度でグループ化され、重大度別に、一番最後に変更されたアラートがリストの先頭になります。	
		アラートは過去 15 分以内にアップデートされました。
		アラートは過去 16 ~ 30 分以内にアップデートされました。
		アラートは過去 31 ~ 45 分以内にアップデートされました。
	ひし形なし	アラートは 46 分以上前にアップデートされました。
Latest Event Description	イベント カテゴリです。Application、Connectivity、Environment、Interface、Other、Reachability、System Hardware、Utilization のいずれかが表示されます。複数のイベントが含まれるアラートについては、最新の変更が含まれるイベントのカテゴリが表形式の画面に示されます。	
Status	前回のポーリングに基づくアラート ステータス。	
	Active	アラートはライブ状態です。(一時停止しているデバイスのアラートはアクティブのままになります。詳細は、P.3-30 の「アラートへの応答で電子メールを送信する」を参照してください)。
	Cleared	アラートはライブ状態ではありません。アラームがポーリング時刻から 8 分以上 Cleared 状態になると、アラートは期限切れになり画面から削除されます。
Acknowledged	アラートはユーザによって手動で確認応答されます (Alert Details ページから)。	

Alerts and Events 画面のカスタマイズ

ビューをセットアップしてから、次のように特定のビューを選択したりフィルタを使用すると、Alerts and Events 画面をカスタマイズできます。

- ビューは、Alerts and Events 画面に表示される **デバイス グループ**を制御します。P.3-8 の「Alerts and Events のビューの選択」を参照してください。
- フィルタは、ユーザが監視する **特定のデバイス タイプのアラートの重大度とそのステータス**を制御します。P.3-8 の「Alerts and Events のフィルタリング」を参照してください。

また、Operations Manager イベントの名前をわかりやすい名前に変更できます。この名前は、Alerts and Events 画面とユーザが作成するすべての Alert History レポートに反映されます。Notification Customization を使用して Operations Manager イベント名を変更する方法については、P.14-21 の「イベントのカスタマイズ」を参照してください。

Alerts and Events のビューの選択

Monitoring Dashboard > Alerts and Events の順に選択して Alerts and Events 画面を開くと、画面の左側のビュー ペインに使用可能なすべてのビューのリストが表示されます。表示されるビューがユーザのニーズを満たしていない場合は、P.6-1 の「ビューの管理」で説明するように、新規ビューを作成することができます。

ビュー ペインは2分ごとにアップデートされます。1つの Alerts and Events 画面のビュー ペインには18ビューまで表示できます。P.6-3 の「ビューのアクティブ化と無効化」を参照してください。

Alerts and Events のフィルタリング

フィルタリングによって、重大度、ステータス、発信元のデバイスを基準にアラートが表示されるように Alerts and Events 画面を操作できます。



(注)

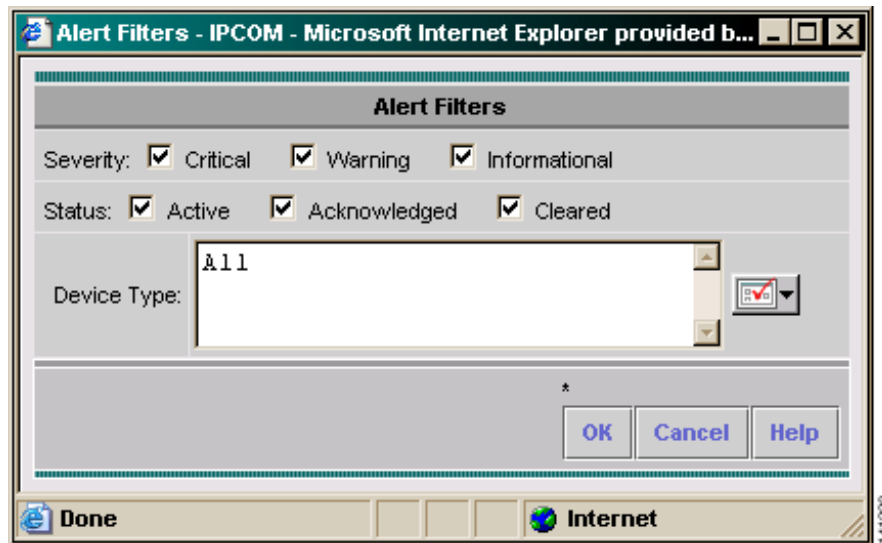
アラート フィルタを使用したら、フィルタは変更するまですべてのビューに適用されます。他のクライアントは影響を受けません。セッションを終了すると、フィルタは失われます。フィルタはビュー ペインの重大度アイコンに影響を与えません。

ステップ 1 Monitoring Dashboard > Alerts and Events の順に選択します。Alerts and Events 画面が開きます。

ステップ 2 Alerts and Events 画面の右上隅のツール ボタン領域にあるフィルタリング ボタンをクリックします。

図 3-4 に Alert Filters ページの表示例を示します。Device Type ボックスの右にあるボタンからデバイス タイプを選択すると、このボックスに入力できます。デフォルトでは、すべてのデバイスが選択されます。

図 3-4 Alerts and Events : Alert Filters ダイアログボックス



ステップ 3 フィルタリング可能なすべてのデバイス タイプを確認するには、Device Type ボックスの右にあるボタンをクリックしてください。図 3-5 のような Device Types ポップアップ ウィンドウが開きます。

図 3-5 Alerts and Events : Device Types ダイアログボックス



■ アラートおよびイベントの詳細の取得

ステップ4 使用するフィルタリング基準のみ選択されていることを確認します。

ステップ5 OK をクリックします。

アラートおよびイベントの詳細の取得

次のトピックでは、イベントの詳細情報を取得するための Alert Details ページの起動方法と使用方法について説明します。

- [Alert Details ページの起動 \(P.3-10\)](#)
- [Alert Details ページのレイアウトについて \(P.3-11\)](#)
- [アラートに関連するイベントの表示 \(P.3-14\)](#)
- [イベントの詳細の表示 \(P.3-15\)](#)

Alert Details ページの起動

Alert Details ページは、1 つの特定のアラートになったすべてのイベントに関する情報を提供します。



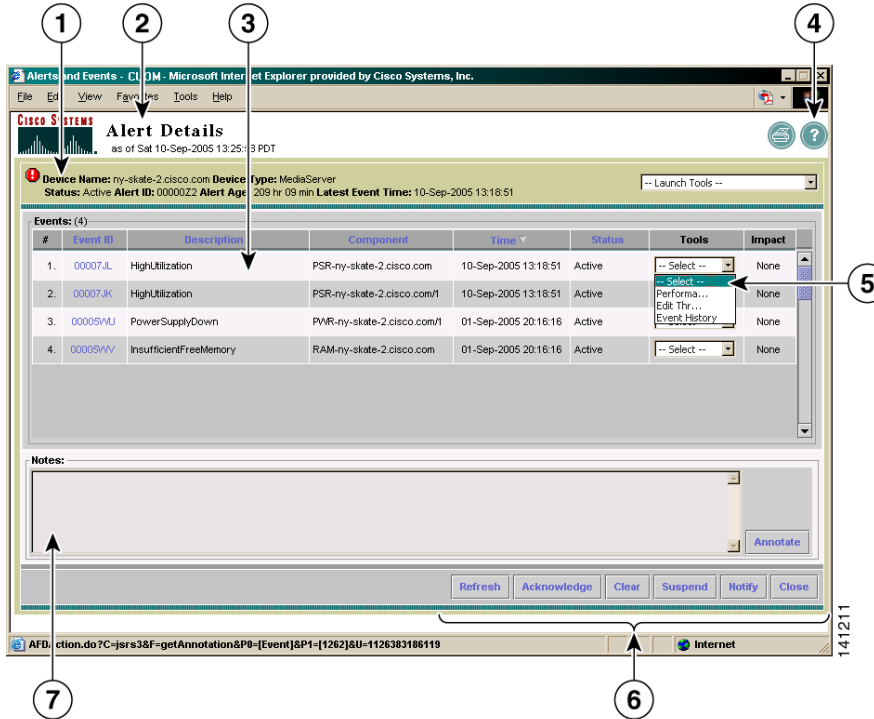
(注)

Alert Details ページは Service Level View から開くこともできます。[P.2-12](#) の「アラート情報の表示」を参照してください。

ステップ1 **Monitoring Dashboard > Alerts and Events** の順に選択します。Alerts and Events 画面が開きます。

ステップ2 調査するアラートを特定して、アラート ID をクリックします。Alert Details ページが開きます。

図 3-6 Alert Details ページ



1	アラートステータスバー。P.3-11の「アラートステータスバー」を参照してください。	5	ツール カラム リスト。Event History などのツールを選択します。P.3-13の「Tools カラム」を参照してください。
2	起動情報の領域。P.3-13の「起動情報の領域」を参照してください。	6	コマンド ボタン領域。P.3-13の「コマンド ボタン領域」を参照してください。
3	表形式の表示ペイン。P.3-13の「表形式の表示ペイン」を参照してください。	7	Notes ペイン。P.3-13の「Notes ペイン」を参照してください。
4	Window ツール領域。P.3-13の「Window ツール領域」を参照してください。		

Alert Details ページのレイアウトについて

ここでは、Alert Details ページに表示される情報について詳しく説明します。各ペインは、図 3-6 に示したレイアウトで表示されます。

アラートステータスバー

アラートステータスバーは、リストに表示されたイベントが関連付けられているアラートの詳細情報を表示します。表 3-3 に、このアラートステータスバーの表示内容について示します。

表 3-3 Alert Details ページ : アラートステータスバーの内容

フィールド	説明
Device Name	デバイス名または IP アドレス。
Device	デバイス タイプ。

表 3-3 Alert Details ページ : アラート ステータスバーの内容 (続き)

フィールド	説明	
Status	前回のポーリングに基づくアラート ステータス。	
	Active	アラートはライブ状態です。(一時停止しているデバイスのアラートはアクティブのままになります。詳細は、 P.3-30 の「アラートへの応答で電子メールを送信する」を参照してください)。
	Cleared	アラートはライブ状態ではありません。アラームがポーリング時刻から 8 分以上 Cleared の状態になると、アラートは期限切れになりこのページから削除されます。
	Acknowledged	アラートはユーザによって手動で確認応答されます (Alert Details ページから)。そのアラートでイベントが再発すると、アラートの状態は Active に戻ります。
Alert ID	アラート識別番号	
Alert Age	アラート ステータスに応じた、アラート作成後の経過時間です。	
	Active または Acknowledged	アラート作成時刻と現在のサーバ時刻との間で経過した時間。
	Cleared	作成時刻と Last Change 時刻との間で経過した時間 (Last Change 時刻でもアラートがクリアされた時刻を表示する場合があります)。
Last Change	アラートが最後にアップデートされた日付と時刻 (イベントの再発、アラートの確認応答、注釈の追加などのアクティビティを示します)。アラートは重大度でグループ化され、重大度別に、一番最後に変更されたアラートがリストの先頭になります。	
Launch Tools	<p>Operations Manager のツールおよび外部アプリケーションを起動できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Alert Details : Alert Details ページを開きます (P.3-10 の「Alert Details ページの起動」を参照)。 Alert History : Alert History レポートを開きます (P.11-11 の「Alert History レポートについて」を参照)。 Performance : パフォーマンス モニタリングを表示します (P.7-2 の「パフォーマンス グラフの使用方法」を参照)。 Name of Synthetic Test : Create Synthetic Test ページを開きます (P.9-6 の「模擬テストの作成」を参照)。表示されるオプションはデバイスによって異なります。模擬テストの詳細については、P.9-2 の「模擬テストを使用する前に」を参照してください。 Node-To-Node Test : Node-To-Node Test Configuration ページを開きます (P.10-3 の「単一のノード間テストの作成」を参照)。 SRST Test : SRST Test Configuration ページを開きます (P.18-12 の「必要に応じた 1 つの SRST テストの設定」を参照)。 Polling Parameters : Polling Parameters: Edit ページを開きます (P.17-14 の「ポーリングパラメータの編集」を参照)。 Threshold Parameters : Managing Thresholds: Edit ページを開きます (P.17-26 の「しきい値の編集」を参照)。 Administrative Pages : デバイスの管理ページを開きます。表示されるオプションはデバイスによって異なります。例として、Gateway Administration、Unity Administration、CallManager Serviceability などがあります。 Connectivity Details : Connectivity Detail View を開きます (P.2-8 の「Connectivity Detail View の使用」を参照)。 Path Analysis Tool : Path Analysis Tool を開きます (P.2-14 の「Path Analysis Tool の起動」を参照)。 Operations Manager Device Center : Operations Manager サーバの Device Center ページを開きます (P.15-1 の「Device Management の使用方法」を参照)。 	

起動情報の領域

起動情報の表示領域には、Alert Details ページがサーバで起動した時刻が表示されます。

表形式の表示ペイン



Alert Details ページの表形式の表示ペインには、イベントの詳細をリストにした表が表示されます。これらのイベントは、アラート ステータスバーストで表示されているアラートに関連付けられています。この画面はペイン下部の **Refresh** をクリックするとリフレッシュできます。表内のすべての項目の説明については、P.3-10 の「アラートおよびイベントの詳細の取得」を参照してください。

表形式の表示画面はスクロールが可能で、1,000 レコードまで格納できます。このページから実行できるアクションについては、P.3-14 の「アラートに関連するイベントの表示」を参照してください。

Window ツール領域

Alert Details ページの右上隅には、表 3-4 で示すプリンタ ボタンと Operations Manager のツール ボタンがあります。

表 3-4 Alert Details ページ : Window ツール ボタン

アイコン	意味	参照先
	印刷用にプリンタに適したバージョンを開きます。	P.1-20 の「画面またはレポートの印刷」
	Operations Manager オンライン ヘルプを開きます。	P.1-17 の「ヘルプの使用」

Tools カラム

Tools カラムには Alert History が含まれます。Event History を選択すると、コンポーネントの 24 時間の Event History レポートが開きます。P.11-3 の「24 時間のコンテキストベースの Alert and Event History レポート」を参照してください。

Notes ペイン

Notes ペインは、ユーザが入力したアラートの注釈をリストで表示します。Notes ペインは、すべてのユーザがアラート情報を確認できるようにする便利なツールです。Annotate ボタンをクリックすると注釈を追加できます。注釈の追加については、P.3-3 の「Alerts and Events 画面の起動」を参照してください。


コマンド ボタン領域

Notes ペインの Annotate ボタン以外にも、コマンド ボタン領域を使用してアラートに応答する方法があります。

表 3-5 Alert Details ページ : コマンド ボタン

ボタン	処理
Refresh	表形式の表示をリフレッシュします。
Acknowledge	イベント ステータスを Acknowledged に変更します。P.3-28 の「アラートへの確認応答」を参照してください。

表 3-5 Alert Details ページ : コマンド ボタン (続き)

ボタン	処理
Clear	アラートをクリアします。P.3-29 の「アラートのクリア」を参照してください。  (注) アラートは、Operations Manager が自身の通常のポーリングを行ってポーリング時刻から 8 分以上アラームが Cleared 状態を継続していると判定した場合に、Alerts and Events 画面から削除されます。
Suspend	一時停止可能なデバイスで Detailed Device View を開くことにより、デバイスまたはデバイス コンポーネントでのポーリングおよびトラップ処理を一時停止します。Detailed Device View については P.3-19 の「Detailed Device View の起動」を参照してください。
Notify	アラートについて電子メールの通知を送信します。P.3-30 の「アラートへの応答で電子メールを送信する」を参照してください。
Close	Alert Details ページを閉じます。

アラートに関連するイベントの表示

Alert Details ページの表形式の表示を使用して、特定のアラートに関連するすべてのイベントに関する詳細情報を得ることができます。図 3-7 に示す表形式の表示では、一番最後に変更されたイベントがリストの先頭になります。

イベントはアラートが期限切れになるまでは Alert Details ページに表示されたままになります。



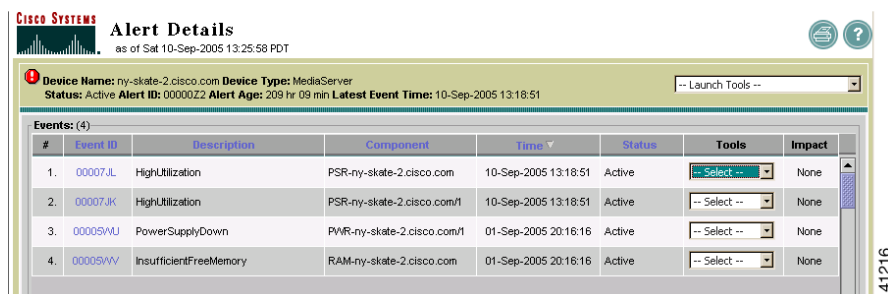
(注)

デバイスを一時停止している場合、イベントは Active の状態を保ちます。

イベントが再発しても既存のイベントはアップデートされません。ただし、再発したイベントには新規イベント ID が付いて表示されます。

図 3-7 に、Alert Details 表の表示例を示します。この表は 30 秒ごとにリフレッシュされます。

図 3-7 Alert Details ページ : 表形式の表示



#	Event ID	Description	Component	Time	Status	Tools	Impact
1.	00007JL	HighUtilization	PSR-ny-skate-2.cisco.com	10-Sep-2005 13:18:51	Active	-- Select --	None
2.	00007JK	HighUtilization	PSR-ny-skate-2.cisco.com/1	10-Sep-2005 13:18:51	Active	-- Select --	None
3.	00005WU	PowerSupplyDown	PWR-ny-skate-2.cisco.com/1	01-Sep-2005 20:16:16	Active	-- Select --	None
4.	00005WV	InsufficientFreeMemory	RAM-ny-skate-2.cisco.com	01-Sep-2005 20:16:16	Active	-- Select --	None

表 3-6 は、表要素の定義をまとめたものです。ペイン下部の **Refresh** をクリックすると、表の内容がリフレッシュされます。



ヒント

Alerts and Events 画面の Window ツール領域を開くと、選択したコンポーネントで発生したすべてのイベントに関する過去 24 時間の Alert History レポートを作成できます。

表 3-6 Alert Details 表形式の表示 : 内容

カラム	説明	
Event ID	イベント識別番号。このリンクをクリックすると Event Details ページが開きます (P.3-10 の「アラートおよびイベントの詳細の取得」を参照)。このイベント ID は、通知サービスで提供されるイベント コードとは異なることに注意してください。詳細については、P.14-21 の「イベントのカスタマイズ」を参照してください。	
Description	Operations Manager のイベント名 (P.D-1 の「処理されるイベント」を参照)。また、Operations Manager イベントの名前をわかりやすい名前に変更できます。Notification Customization を使用して Operations Manager イベント名を変更する方法については、P.14-21 の「イベントのカスタマイズ」を参照してください。	
Component	イベントが発生したデバイス要素。	
Time	イベントが発生した時刻。	
Status	前回のポーリングに基づくイベント ステータス。	
	Active	イベントはライブ状態です。
	Cleared	イベントはライブ状態ではありません。
	Suspended	デバイスは一時停止されています。
	Resumed	デバイスは再開されています。
Deleted	デバイスは削除されています。	
Tools	その他のタスクを実行できるツールへリンクします。次の例を参考にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> Event History レポートを開きます (P.11-13 の「Event History レポートについて」を参照)。 パフォーマンス (P.7-2 の「パフォーマンス グラフの使用方法」を参照)。 しきい値設定の編集 (P.17-26 の「しきい値の編集」を参照)。 	
Impact	オプションは None または High です。High は、Service Impact レポートを開くリンクです。P.3-16 の「Service Impact レポートについて」を参照してください。	

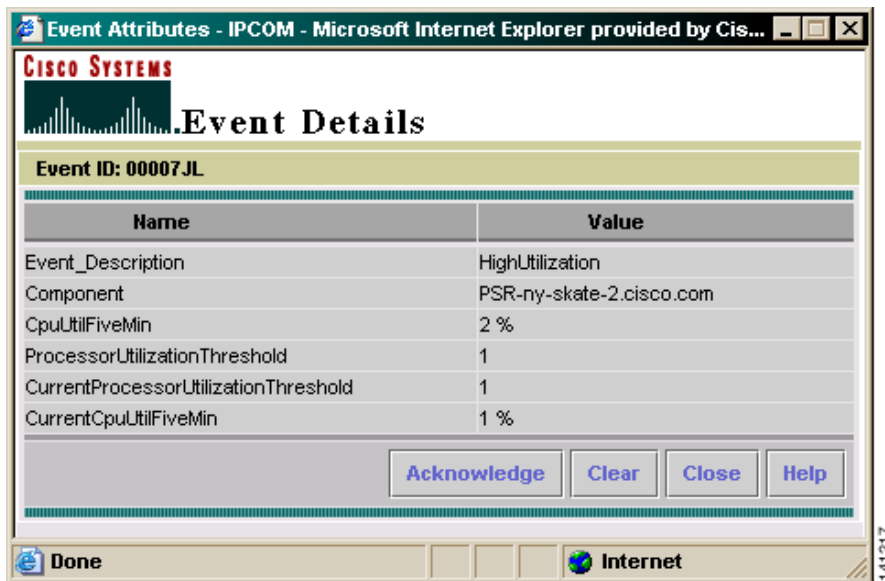
イベントの詳細の表示

Event Details ページは、イベント時の MIB 属性値、ポーリングやしきい値情報、使用率情報など、イベントの追加的な詳細情報を提供します。Event Details ページには、イベントへの応答方法も表示されます。

-
- ステップ 1** Monitoring Dashboard > Alerts and Events の順に選択します。Alerts and Events 画面が開きます。
- ステップ 2** 調査するアラートを特定して、アラート ID をクリックします。Alert Details ページが表示されます。
- ステップ 3** 調査するイベントを特定して、イベント ID をクリックします。Event Details ページが表示されます。
-

図 3-8 に、標準的な Event Details ページの表示例を示します。

図 3-8 Event Details ページ



この Event Details ページに表示される情報は、イベントの内容によって異なります。表 3-7 に、Event Details ページのコマンド ボタンを示します。

表 3-7 Event Details ページ : コマンド ボタン

ボタン	処理
Acknowledge	イベント ステータスを Acknowledged に変更します。詳細については、 P.3-28 の「アラートへの確認応答」を参照してください。
Clear	イベントを削除します。
Close	Event Details ページを閉じます。
Help	オンライン ヘルプを開きます。

Service Impact レポートについて

Service Impact レポートは、特定の障害が残りの IP テレフォニー構成にどのように影響するかを示す 1 つのレポートです。このレポートには、次の質問に対する回答があります。

- この障害はユーザにどのような影響を与えるか。
- この障害によってどのサービスが使用できなくなるか。
- 障害にはどのような原因が考えられ、障害の場所はどこか。

Service Impact レポートの表示

- ステップ 1** **Monitoring Dashboard > Alerts and Events** の順に選択します。Alerts and Events 画面が開きます。
- ステップ 2** 調査するアラートを特定して、アラート ID をクリックします。Alert Details ページが開きます。
- ステップ 3** Impact カラムを確認します。Service Impact レポートが使用可能な場合は、この Impact カラムに High と表示されています。表示が None の場合は、Service Impact レポートは使用できません。
- ステップ 4** **High** をクリックします。Service Impact レポートが表示されます。図 3-9 に、Service Impact レポートの表示例を示します。

図 3-9 Service Impact レポート

The screenshot displays the 'Service Impact Report' interface. At the top, there is a 'Go to:' dropdown menu. Below it, the 'Service Impact Report' section is divided into three main areas:

- Alerts:** A table with columns: Severity, Alert ID, Device Name, Device Type, and Status. The data row shows: Critical, 000000SZ, VHM-CH-UNITY, MediaServer, Active.
- Associated Events:** A table with columns: Alert ID, Event ID, Description, Component, and Status. The data row shows: 000000SZ, 1977, ServiceDown, VHM-CH-UNITY, Active.
- Overall Impact Summary:** A table with columns: # and Impact. The data row shows: 1, Changes to subscriber accounts will not be propagated to the directory.

Navigation links like 'Back to Top' are present between sections. The Cisco Systems logo and 'IP Communications Operations Manager Service Impact' title are at the top. Utility icons (refresh, print, help) are on the right. A vertical page number '144257' is on the far right.

表 3-8 Service Impact レポートのカラムの説明

カラム	説明		
Alerts	Severity	アラートの重大度。	
	Alert ID	アラート識別番号。	
	Device Name	デバイス名または IP アドレス。	
	Device Type	デバイス タイプ。	
	Status	前回のポーリングに基づくアラート ステータス。	
Associated Events	Alert ID	イベントが関連付けられているアラート識別番号。	
	Event ID	イベント識別番号。	
	Description	Operations Manager のイベント名 (P.D-1 の「処理されるイベント」を参照)。また、Operations Manager イベントの名前をわかりやすい名前に変更できます。Notification Customization を使用して Operations Manager イベント名を変更する方法については、P.14-21 の「イベントのカスタマイズ」を参照してください。	
	Component	イベントが発生したデバイス要素。	
	Status	前回のポーリングに基づくイベント ステータス。	
		Active	イベントはライブ状態です。
Cleared		イベントはライブ状態ではありません。	
Suspended		デバイスは一時停止されています。	
Deleted		デバイスは削除されています。	
Overall Impact Summary	この障害がユーザの IP テレフォニー構成に今後どのような影響を与えるかに関する説明が表示されます。		

デバイス情報の入手

Detailed Device View は、P.3-19 の「Detailed Device View の起動」にリスト表示する、デバイスとデバイス コンポーネントに関する詳細情報を提供します。Operations Manager で現在監視しているデバイスに関する情報を表示することができ、また、監視を一時停止しているデバイスについても情報を得ることができます。

Detailed Device View では、次のことが行えます。

- ハードウェアおよびソフトウェアのシステム、環境、接続性、インターフェイス コンポーネントに関する情報を表示します。
- ハードウェアおよびソフトウェアの、集約デバイスのサブコンポーネントに関する情報を表示します。
- Cisco CallManager、Voice Services、Work Flow、Synthetic Tests のアプリケーション ステータスを表示し、必要に応じて管理ページの出発点を提供します。
- デバイスまたはデバイス コンポーネントの管理を一時停止または再開して、デバイスのポーリングをこれ以上行わないようにするか、ポーリングを再開します。
- その他の Operations Manager ツールを起動します。

Detailed Device View の起動

Alerts and Events 画面からデバイス リンクをクリックするか、Alert Details ページの起動後に **Suspend** をクリックすると Detailed Device View を起動できます。



(注)

識別されていないトラップ デバイスまたは一時停止している電話には Detailed Device View を表示できません。(一時停止電話とは、Cisco CallManager に登録できない電話を指します)。識別されていないトラップの詳細については、P.B-1 の「処理されるトラップ、パススルートラップ、および識別されていないトラップとイベント」を参照してください。



(注)

Detailed Device View ページは Service Level View から開くこともできます。P.2-13 の「デバイス情報の表示」を参照してください。

ステップ 1 Alerts and Events 画面から、Device Name カラムに表示されたデバイスをクリックします。Detailed Device View が開きます。(表示例は、図 3-10 を参照してください)。

ステップ 2 コンポーネントのカテゴリ ペインで、デバイス ツリーから項目を選択します。システム情報ペインに、選択された項目に関する情報が入力されています。

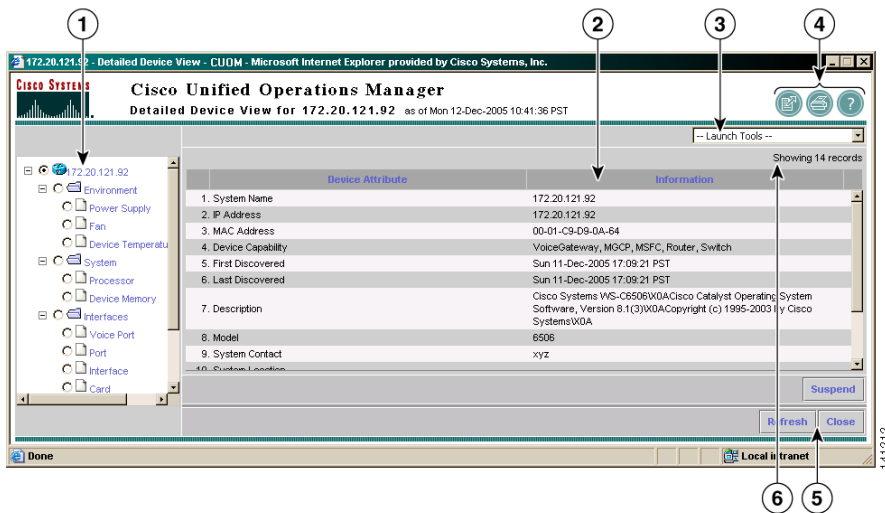
この項目が集約デバイスのサブデバイスの場合、Detailed Device View には、そのサブデバイスの管理状態とデバイスの機能が表示されます。サブコンポーネントの完全な Detailed Device View を表示するには、**Launch New DDV for This Device** ボタンをクリックします。

ステップ 3 管理対象デバイスを一時停止して、これ以上ポーリングと処理を継続しない場合（または一時停止していたデバイスを再開する場合は、次のように実行します。

- **Suspend** をクリックしてデバイスの管理状態を **Suspended** に変更します。すると **Operations Manager** はデバイス コンポーネントをポーリングしなくなり、トラップも処理しなくなります。すべてのイベントとアラートは **Active** 状態のままになります。デバイスが **Suspended Devices** ビューに移動します。後続のイベント（トラップを含む）は無視され、処理されなくなります。
- **Resume** をクリックして、デバイスの管理状態を **Active** にします。**Operations Manager** はデバイスのポーリングとトラップ処理を再開します。デバイスの表示は **Suspended Devices** ビューから消え、直前のビューに戻ります。

図 3-10 に、Detailed Device View の表示例を示します。

図 3-10 Detailed Device View



1	コンポーネント カテゴリ ペイン。P.3-21 の「コンポーネント カテゴリ ペイン」を参照してください。	4	Window ツールバー。P.3-22 の「Window ツール領域」を参照してください。
2	システム情報ペイン。P.3-21 の「システム情報ペイン」を参照してください。	5	コマンド ボタン領域。P.3-22 の「コマンド ボタン領域」を参照してください。
3	ツール。P.3-21 の「ツールの起動」を参照してください。	6	レコード カウント。P.3-22 の「レコード カウント」を参照してください。

Detailed Device View のレイアウトについて

次のトピックでは、Detailed Device View に表示される情報について詳しく説明します。

コンポーネント カテゴリ ペイン

コンポーネント カテゴリ ペインは、デバイスまたはクラスタのコンポーネントをリスト表示します。コンポーネントを選択すると、そのコンポーネントに関する詳しい情報を表示することができます。たとえば、プロセッサの CPU 使用率、メモリの TotalUsedMemory などの情報が表示されます。

表示しているデバイスが集約デバイスの場合は、コンポーネント カテゴリ ペインにサブデバイスも表示されます。サブコンポーネントの完全な Detailed Device View を表示するには、**Launch New DDV for This Device** ボタンをクリックします。このボタンは、デバイス ツリーからサブデバイスを選択した後に表示されます。

システム情報ペイン

システム情報ペインは、システム名、IP アドレス、SysObjectID、システム接点などの情報を提供します。表 3-11 (P. 3-23) に、Detailed Device View に表示されるデバイス タイプ別情報の例を示します。Detailed Device View に表示されるその他の情報については、P.3-23 の「デバイス要素の詳細の表示」を参照してください。

システム情報ペインに値のない属性がリスト表示された場合は、次の理由が考えられます。

- 属性が入力されていない。
- 属性が適切に設定されていない。
- 属性がデバイスに適用されていない。

Suspend または **Resume** ボタン (表示されるボタンはコンポーネントの現在の管理状態に応じて異なります) をクリックすると、デバイスまたはコンポーネントの監視を一時停止または再開できます。これらの機能については、次の各項で説明します。

- デバイスの一時停止と再開 (P.3-25)
- デバイス コンポーネントの一時停止および再開 (P.3-26)

ツールの起動

Launch Tools プルダウン メニューを使用すると、外部のアプリケーション同様、Operations Manager 以外のツールを Detailed Device View から起動することができます。使用可能なツールは、デバイス タイプおよびその設定によって異なる可能性があります。

Launch Tools メニューには、次のオプションが表示されます。




- Alert Details : Alert Details ページを開きます (P.3-10 の「Alert Details ページの起動」を参照)。
- Alert History : Alert History レポートを開きます (P.11-11 の「Alert History レポートについて」を参照)。
- Performance : パフォーマンス モニタリングを表示します (P.7-2 の「パフォーマンス グラフの使用方法」を参照)。
- Name of Synthetic Test : Create Synthetic Test ページを開きます (P.9-6 の「模擬テストの作成」を参照)。表示されるオプションはデバイスによって異なります。模擬テストの詳細については、P.9-2 の「模擬テストを使用する前に」を参照してください。
- Node-To-Node Test : Node-To-Node Test Configuration ページを開きます (P.10-3 の「単一のノード間テストの作成」を参照)。
- SRST Test : SRST Test Configuration ページを開きます (P.18-12 の「必要に応じた 1 つの SRST テストの設定」を参照)。
- Polling Parameters : Polling Parameters: Edit ページを開きます (P.17-14 の「ポーリングパラメータの編集」を参照)。

- Threshold Parameters : Managing Thresholds: Edit ページを開きます (P.17-26 の「しきい値の編集」を参照)。
- Administrative Pages : デバイスの管理ページを開きます。表示されるオプションはデバイスによって異なります。例として、Gateway Administration、Unity Administration、CallManager Serviceability などがあります。
- Connectivity Details : Connectivity Detail View を開きます (P.2-8 の「Connectivity Detail View の使用」を参照)。
- Path Analysis Tool : Path Analysis Tool を開きます (P.2-14 の「Path Analysis Tool の起動」を参照)。
- Operations Manager Device Center : Operations Manager サーバの Device Center ページを開きます (P.15-1 の「Device Management の使用方法」を参照)。

Window ツール領域

Detailed Device View の右上隅には、使用可能なツール ボタンが表示されます。すべてのボタンの説明をまとめたものが、次の表 3-9 です。

表 3-9 Detailed Device View ページ : Window ツール ボタン

アイコン	意味	参照先
	現在の表示を PDF ファイルにエクスポートします。	P.1-19 の「画面またはレポートからデータをエクスポートする」
	印刷用にプリンタに適したバージョンを開きます。	P.1-20 の「画面またはレポートの印刷」
	オンライン ヘルプを開きます。	P.1-17 の「ヘルプの使用」

レコード カウント

レコード カウントは、デバイスで使用可能なタイプの情報の数をリストで表示します。

コマンド ボタン領域

システム情報ペインの Suspend または Resume ボタンの他に、コマンド ボタン領域を使用してアラートに回答する方法があります。

表 3-10 Detailed Device View : コマンド ボタン

ボタン	処理
Suspend または Resume	デバイスの監視をアクティブまたは非アクティブにします。デバイスの状態に応じて、いずれかのボタンのみ使用可能になります。P.3-25 の「デバイスの監視の一時停止」を参照してください。
Refresh	Detailed Device View ページをリフレッシュします。(Detailed Device View は自動的にリフレッシュされません。手動で作業する必要があります)。
Close	Detailed Device View ページを閉じます。

起動情報

起動情報には、Detailed Device View がいつ起動したかが表示されます。ページをリフレッシュすると、時刻はアップデートされます。

デバイス要素の詳細の表示

ここでは、各種のデバイス クラスに応じて Detailed Device View に表示される情報について説明します。次の項で構成されています。

- [Detailed Device View](#) に表示される情報 (P.3-23)
- [Detailed Device View](#) にカスケードされた電話を表示する (P.3-24)

Detailed Device View に表示される情報

表 3-11 に、Operations Manager がサポートするさまざまな種類のデバイス情報をデバイス タイプ別に示します。

表 3-11 Detailed Device View に表示されるデバイス情報

デバイス タイプ	Detailed Device View でレポートされるステータス					Detailed Device View でレポートされるデバイス固有のコンポーネント	Detailed Device View ¹ でレポートされるサブコンポーネント
	Environment	System	Interface	Connectivity	Application ²		
Cisco CallManager または Cluster							Media Servers、 Digital Voice Gateways、Voice Gateways、 VoiceMail Gateways
Content Networking		X	X				
Digital Voice Gateway			X	X			
Gatekeeper	X	X	X	X			
IPCC	X	X	X			IPCC 機能コンポーネント： <ul style="list-style-type: none"> • CTI ゲートウェイ • CTI Object Server • 管理者用ワークステーション • ロガー • NIC IPCC コンポーネント： <ul style="list-style-type: none"> • 周辺ゲートウェイ • Peripheral Interface Manager • ルータ 	
IPSLA	X	X	X				
Media Server	X	X	X		X		
MRP		X	X	X			
Phone Access Switch	X	X	X				
Probe	X	X	X				

表 3-11 Detailed Device View に表示されるデバイス情報 (続き)

デバイス タイプ	Detailed Device View でレポートされるステータス					Detailed Device View でレポートされるデバイス固有のコンポーネント	Detailed Device View ¹ でレポートされるサブコンポーネント
	Environment	System	Interface	Connectivity	Application ²		
Routers	X	X	X				RSM、MSM、MSFC
SPE		X			X		
SSP		X	X				
Switch	X	X	X				RSM、MSM、MSFC
Unity	X	X	X		X		
Unity Express		X	X		X		
Voice Gateway	X	X	X	X	X	Cisco CallManager Express、SRST がイネーブル	RSM、MSM、MSFC
VoiceMail Gateway		X	X	X			

1. これらのサブコンポーネントごとに新しい Detailed Device View を表示できます。
2. 音声アプリケーションおよび模擬テスト用アプリケーション。

ステータス カテゴリ : Environment、System、Interfac など。デバイス クラスに応じて異なるエントリがリスト表示されます。ステータス カテゴリの下に表示される表示例は次のとおりです。

- Environment : 室温、ファン、電源、電圧に関する情報
- System : ハードディスク、RAM、プロセッサ、仮想メモリに関する情報
- Interface : カード、インターフェイス、ポート、音声ポートに関する情報



(注) Voice Port エントリには、IP 電話が接続している Ethernet および Gigabit Ethernet ポートの他にも E1、FXS、および FXO ポートに関する情報が表示されます。電話が接続した Ethernet ポートが新たに検出された場合、Detailed Device View を手動でリフレッシュすると Voice Port 情報がアップデートされます。

- Connectivity : クラスタ名、CallManager のステータス、CallManager リスト、アクティブな CallManager などのクラスタの接続性に関する情報
- Application : Voice Services および Cisco CallManager の情報

Detailed Device View にカスケードされた電話を表示する

Operations Manager では、カスケードされた電話のスイッチ情報は表示されません。カスケードされた電話は、スイッチに接続している別の電話に接続しますが、自身はスイッチに直接的には接続しません。

Operations Manager の電話検出によって、電話が接続しているスイッチ ポートが検出されます。ただし、スイッチ ポートに接続するすべての電話が Operations Manager で検出されるわけではありません。このため、Detailed Device View には、カスケードされた電話のスイッチ情報は表示されません。

デバイスの監視の一時停止

Detailed Device View でデバイスを選択して **Suspend** ボタンをクリックすると、デバイスの監視を停止することができます。これとは逆に **Resume** ボタンをクリックすると監視を再開できます。特定のコンポーネントに対しても、この一時停止と再開を実行することができます。詳細については、次のトピックを参照してください。

- デバイスの一時停止と再開 (P.3-25)
- デバイス コンポーネントの一時停止および再開 (P.3-26)

デバイスの一時停止と再開

デバイスの監視を停止（監視の状態を `false` に変更）すると、Operations Manager はそのデバイスに関する情報をポーリングしなくなります。後続のイベント（トラップを含む）は無視され、処理されなくなります。

デバイスを一時停止しても、そのデバイスのアクティブなアラートおよびイベントは、Active の状態のままになります。同様に、デバイスで発生した *Suspended* イベントは、そのデバイスの Alert Details ページで確認できます。これは、次のことを確実にするためです。

- デバイスを一時停止した時点で画面から重要な情報を誤って削除できないようにする（アラートが削除されると、Alerts and Events 画面から削除されます）。
- デバイスを再開しやすくする。

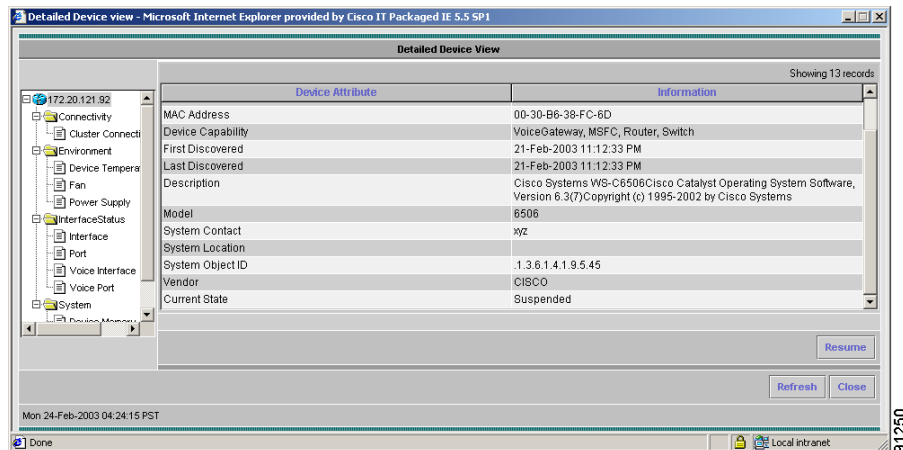
ステップ 1 Alerts and Events 画面から、使用するデバイスが含まれているビューを起動します。（管理対象でないデバイスは *Suspended Devices* ビューに表示されます）。Detailed Device View が開きます。デバイスの管理状態に応じて、Suspend ボタンまたは Resume ボタンが画面に現れます。

ステップ 2 次のどちらかを実行します。

- **Suspend** をクリックしてデバイスの現在の管理状態を *Suspended* に変更します。すると Operations Manager はデバイス コンポーネントをポーリングしなくなり、トラップも処理しなくなります。デバイスが *Suspended Devices* ビューに移動します。後続のイベント（トラップを含む）は無視され、処理されなくなります。
 - **Resume** をクリックしてデバイスの現在の管理状態を *Active* にします。Operations Manager はデバイスのポーリングとトラップ処理を再開します。デバイスの表示は *Suspended Devices* ビューから消え、直前のビューに戻ります。
-

図 3-11 に、一時停止した Cisco Catalyst 6506 スイッチに関する Detailed Device View の表示例を示します。ウィンドウの下部に Resume ボタンが表示されることに注意してください。

図 3-11 Detailed Device View : 一時停止されている Cisco Catalyst 6506 スイッチ



デバイス コンポーネントの一時停止および再開

Detailed Device View を使用してデバイス コンポーネントの管理を停止または再開できます。コンポーネントの管理を停止（管理状態を false に変更）すると、Operations Manager はそのコンポーネントの情報をポーリングしなくなります。後続のイベント（トラップを含む）は無視され、処理されなくなります。



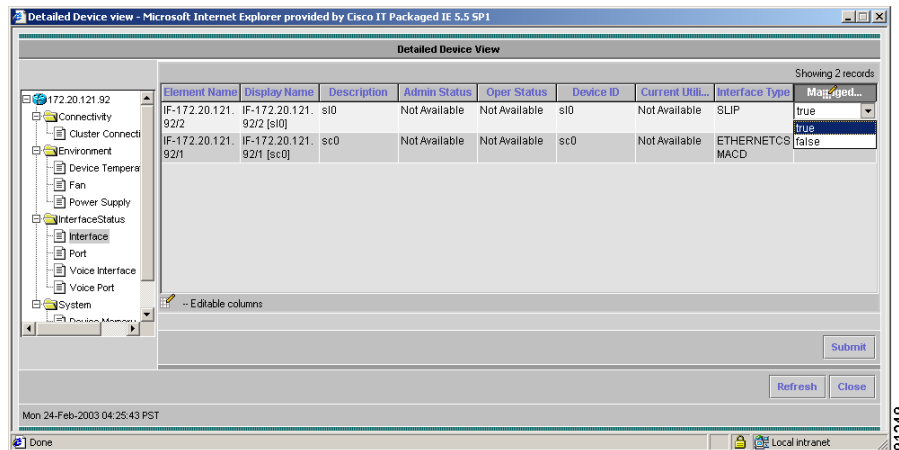
(注)

親デバイスが一時停止されている場合は、デバイス コンポーネントを再開できません。まず親デバイスを再開する必要があります。

- ステップ 1** Alerts and Events 画面から、Device Name カラムに表示されたデバイスをクリックします。Detailed Device View が開きます。
- ステップ 2** 管理を停止するインスタンスを持つコンポーネントを選択します。
- ステップ 3** 管理を停止するインスタンスを特定し、Managed カラムに表示されたリストを使用して状態を変更します。
- ステップ 4** **Submit** をクリックします。

図 3-12 に、Cisco Catalyst 6506 スイッチの管理対象インターフェイスの 1 つで ManagedState カラムを特定する様子を示します。

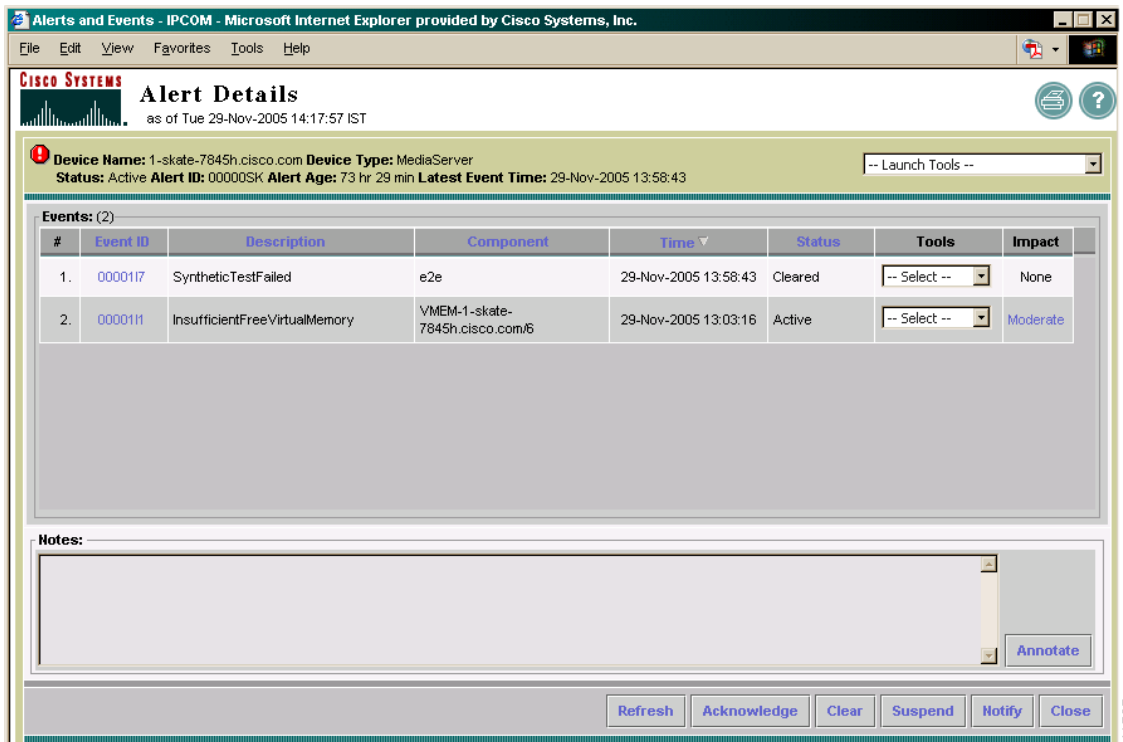
図 3-12 デバイス コンポーネントの管理状態の編集



アラートへの応答

図 3-13 に示すように、Alert Details ページの右下隅には数種類のコマンド ボタンが表示されます。Suspend ボタンについては、P.3-25 の「デバイスの監視の一時停止」を参照してください。ここでは、アラートに応答するための Acknowledge、Clear、Annotate、Notify の各ボタンの使用方法を説明します。

図 3-13 Alert Details ページ



アラートへの確認応答

アクティブなアラートに確認応答すると、アラートを認識していることが他のユーザに通知されます。Alert Details ページの **Acknowledge** ボタンをクリックすると、このステータス変更がすべての Alerts and Events 画面に入力されます。

そのアラートでイベントが再発すると、ステータスは **Active** に戻ります。

ステップ 1 Alert Details ページで、**Acknowledge** をクリックします。確認用のウィンドウが開きます。

ステップ 2 **OK** をクリックします。

図 3-14 に、これから確認応答するアラートの表示例を示します。

図 3-14 アラートに対する確認応答（確認応答前）

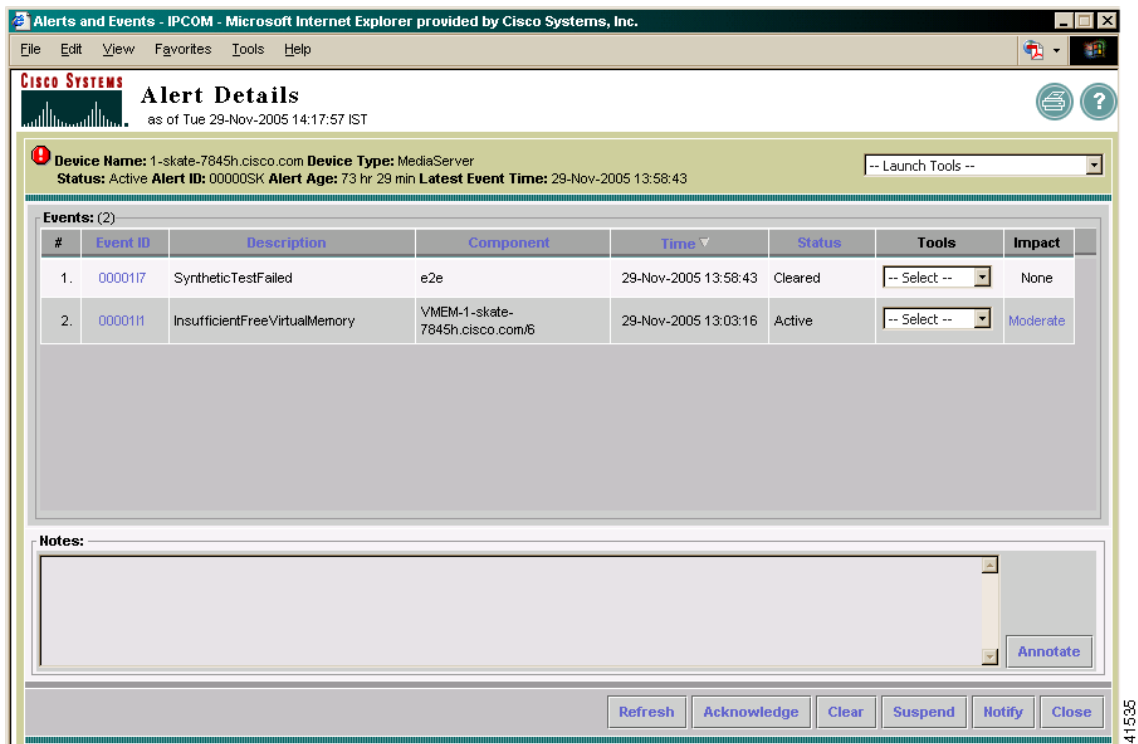


図 3-15 に、Alerts and Events ウィンドウの表示例を示します。一行目に図 3-14 で確認応答したアラートが表示されています。(Last Change カラムに表示されているひし形に注目してください。これは変更があったことを示しています。また、Status カラムには Acknowledged と表示されています。)

図 3-15 アラートに対する確認応答（確認応答後）

#	ID	Device Type	Device Name	Alert Age	Latest Event Time	Latest Event Description	Status
1.	00000SK	MediaServer	1-skate-7845h.cisco.com	73 hr 39 min	29-Nov-2005 14:26:26	Application	Acknowledged
2.	00000SJ	VoiceGateway	172.20.121.92	73 hr 39 min	29-Nov-2005 12:26:25	Other	Active
3.	00000S8	IPCC	161.44.250.21	73 hr 49 min	29-Nov-2005 10:52:12	Application	Active
4.	00000RT	VoiceGateway	vhrn-vg200-1.cisco.com	74 hr 01 min	29-Nov-2005 03:56:40	Interface	Active
5.	00000SS	IPPhone	1	10 hr 52 min	29-Nov-2005 03:35:30	Reachability	Active
6.	00000S4	VoiceGateway	vegas-3640.cisco.com	73 hr 49 min	28-Nov-2005 22:22:43	Interface	Active
7.	00000SP	Cisco CallManager or Cluster	VE-1-Skate-SanJose-Cluster1	58 hr 06 min	27-Nov-2005 04:22:20	Application	Active
8.	00000S3	VoiceGateway	172.20.118.5	73 hr 49 min	26-Nov-2005 14:39:45	Interface	Active
9.	00000SN	VoiceGateway	172.20.118.30	73 hr 39 min	26-Nov-2005 12:48:50	Other	Active
10.	00000SG	MediaServer	GPF	73 hr 44 min	26-Nov-2005 12:48:48	Other	Active
11.	00000RW	MediaServer	GSU-DEV-UNITY	73 hr 49 min	26-Nov-2005 12:48:48	Interface	Active
12.	00000S9	IPCC	161.44.250.78	73 hr 49 min	26-Nov-2005 12:48:48	Application	Active
13.	00000SF	MediaServer	SW-PUB	73 hr 44 min	26-Nov-2005 12:48:48	Other	Active
14.	00000SE	MediaServer	SW-SUB	73 hr 44 min	26-Nov-2005 12:48:46	Other	Active
15.	00000SM	VoiceGateway	vegas-c6k.cisco.com	73 hr 39 min	26-Nov-2005 12:48:46	Other	Active
16.	00000SC	MediaServer	172.20.118.84	73 hr 45 min	26-Nov-2005 12:48:46	Environment	Active
17.	00000SL	MediaServer	172.20.118.86	73 hr 39 min	26-Nov-2005 12:48:44	Other	Active

1411536

アラートのクリア

アクティブなアラートをクリアすると、Alerts and Events 画面のアラートの状態が Cleared に変更されます。この状況を認識するかエラーの発生したイベントを受信したときはアラートをクリアする場合があります。

Alert Details ページの **Clear** ボタンをクリックすると、このステータス変更がすべての Alerts and Events 画面に入力されます。アラートは一度クリアするとステータスを元に戻すことはできません。デバイスの既存の状態を取得するには、デバイスを手動で削除してから再び Operations Manager に追加する必要があります。



(注)

クリアされたアラートは、Operations Manager が自身の通常のポーリングを行ってポーリング時刻から 30 分以上アラームが Cleared 状態を継続していると判定した場合に、Alerts and Events 画面から削除されます。

そのアラートでイベントが再発すると、ステータスは Active に戻ります。

ステップ 1 Alert Details ページで、**Clear** をクリックします。確認用のウィンドウが開きます。

ステップ 2 **OK** をクリックします。

アラートに注釈を付ける

Alert Details ページの **Annotate** ボタンをクリックすると、アラートに注釈を付けることができます。編集可能な Annotation ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには最大で 255 文字の入力が可能です。注釈は任意の数だけ入力できます。注釈は、他のユーザが Alert Details ページからアラートを表示すると必ず表示されます。

-
- ステップ 1** Alert Details ページで、**Annotate** をクリックします。Annotation ダイアログボックスが開きます。
 - ステップ 2** テキストを入力します。255 文字を超えた部分のテキストは警告なしで切り捨てられます。(この場合は別の注釈を追加できます)。
 - ステップ 3** **OK** をクリックします。Notes ボックスに注釈テキストが表示されます。
-

アラートへの応答で電子メールを送信する

Alert Details ページで **Notify** ボタンをクリックすると (この操作はデバイスのアラートまたはサービス品質アラートに対して行えます)、Operations Manager によって複数の受信者に手動で電子メール通知を送信するためのダイアログボックスが開きます。電子メールによる通知には、追加するテキストだけが入ります。アラートやイベント情報は付加されません。(特定のデバイスでアラートまたはイベントが発生した時点で電子メール通知を自動的に送信する場合は、通知サービスを使用して電子メール通知の登録を設定します。P.14-14 の「登録の設定」を参照してください)。

-
- ステップ 1** Alert Details ページで (デバイスのアラートまたはサービス品質アラートに対して) **Notify** をクリックします。E-mail Notification Recipient(s) ダイアログボックスが開きます。
 - ステップ 2** SMTP サーバの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを入力します。
 - ステップ 3** Sender Address フィールドに電子メールアドレスを入力します。
 - ステップ 4** Recipient Address(es) フィールドに複数の電子メールアドレスをカンマで区切って入力します。
 - ステップ 5** Header フィールドにサブジェクトの見出しを入力します。
 - ステップ 6** (オプション) Message フィールドにメッセージを入力します。
 - ステップ 7** **Send** をクリックします。
-